

2013年7月10日 全8頁

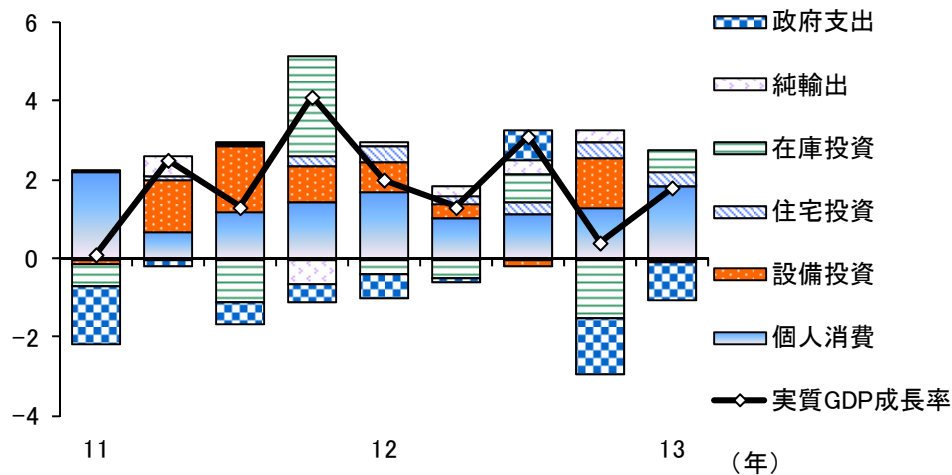
# アメリカ経済グラフポケット(2013年7月号)

2013年7月5日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター  
上野 まな美  
エコノミスト 笠原 滝平

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



(前期比年率、%、%pt)	2011			2012				2013
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	2.5	1.3	4.1	2.0	1.3	3.1	0.4	1.8
個人消費	1.0	1.7	2.0	2.4	1.5	1.6	1.8	2.6
設備投資	14.5	19.0	9.5	7.5	3.6	-1.8	13.2	0.4
住宅投資	4.1	1.4	12.1	20.5	8.5	13.5	17.6	14.0
政府支出	-0.8	-2.9	-2.2	-3.0	-0.7	3.9	-7.0	-4.8
輸出	4.1	6.1	1.4	4.4	5.3	1.9	-2.8	-1.1
輸入	0.1	4.7	4.9	3.1	2.8	-0.6	-4.2	-0.4
寄与度								
個人消費	0.7	1.2	1.5	1.7	1.1	1.1	1.3	1.8
設備投資	1.3	1.7	0.9	0.7	0.4	-0.2	1.3	0.0
住宅投資	0.1	0.0	0.3	0.4	0.2	0.3	0.4	0.3
在庫投資	0.0	-1.1	2.5	-0.4	-0.5	0.7	-1.5	0.6
政府支出	-0.2	-0.6	-0.4	-0.6	-0.1	0.8	-1.4	-0.9
輸出	0.6	0.8	0.2	0.6	0.7	0.3	-0.4	-0.2
輸入	0.0	-0.8	-0.9	-0.5	-0.5	0.1	0.7	0.1

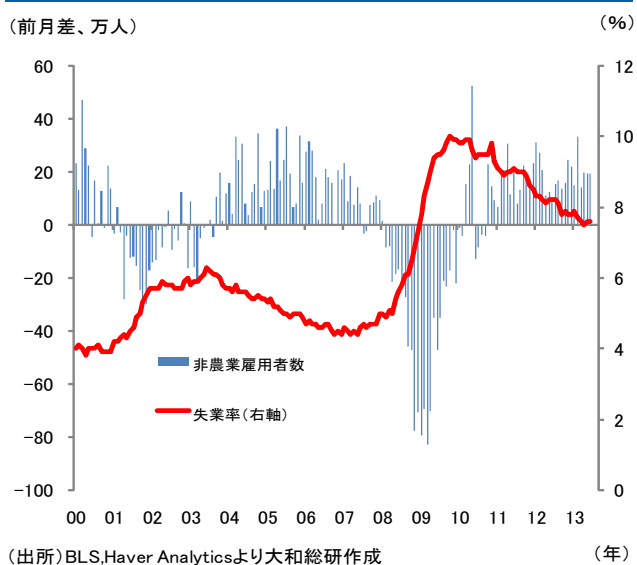
(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

## 雇用環境<sup>1</sup>

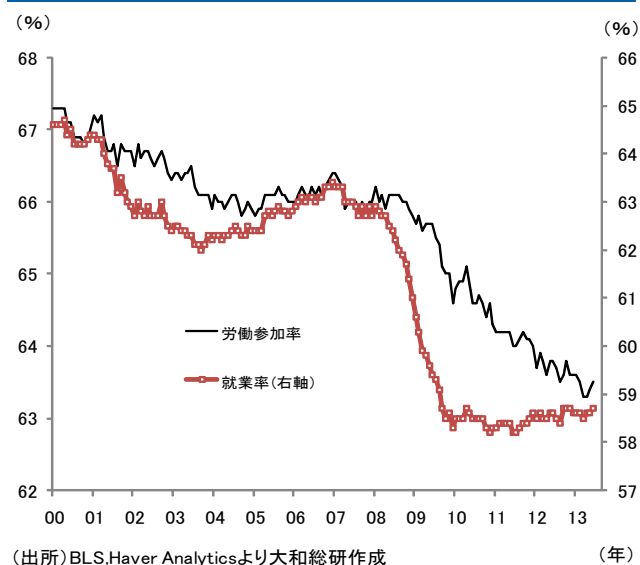
◆6月の失業率は7.6%で、5月から横ばいであった。

◆非農業雇用者数は前月差19.5万人増と、5月と同じ増加幅であった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は20.2万人増であった。

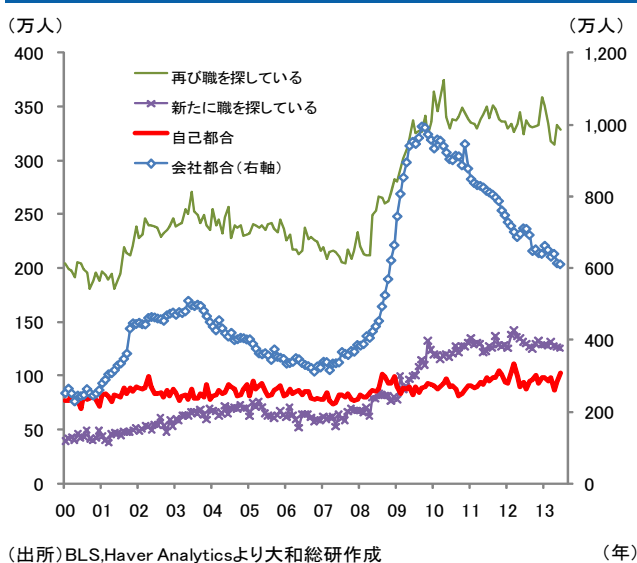
### 非農業雇用者数と失業率



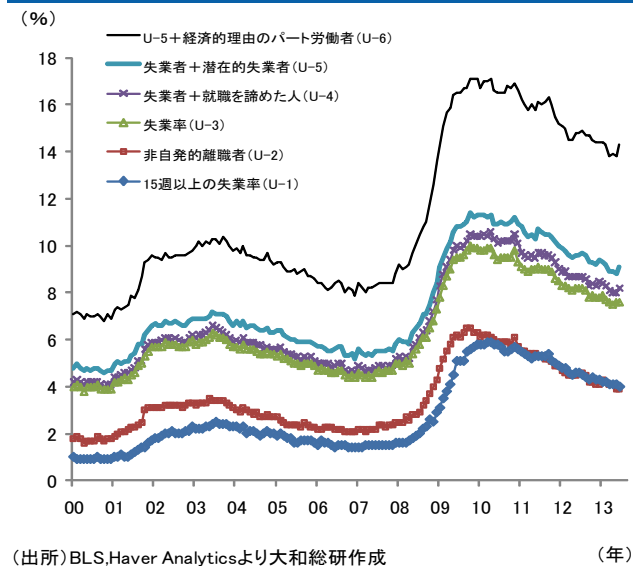
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

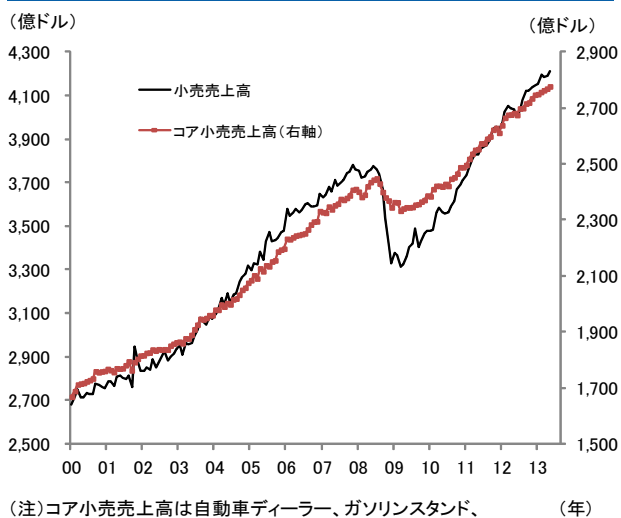


<sup>1</sup> 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「雇用者数の改善ペースは速かった」(2013年7月8日)参照。[http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130708\\_007400.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130708_007400.html)

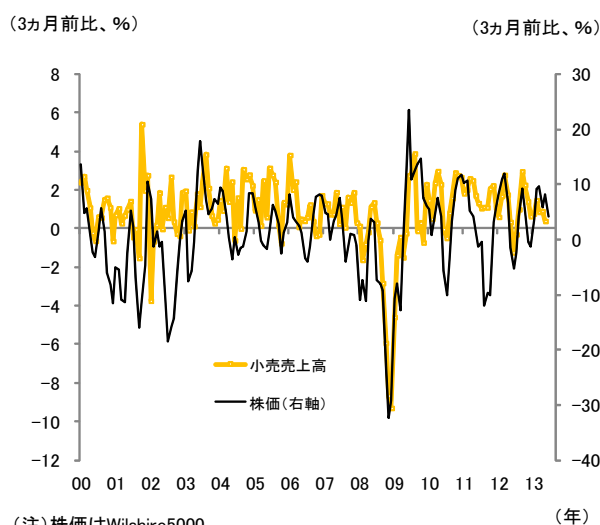
## 個人消費

- ◆5月の個人消費は小売売上高が前月比0.6%増で、コア小売売上高も同0.3%増であった。
- ◆消費者マインドは改善傾向にあり、6月の消費者信頼感指数は2008年1月以来最高となった。
- ◆6月の自動車販売台数は前月比4.3%増加し、年率換算1,589万台であった。2007年11月以来の高水準となった。

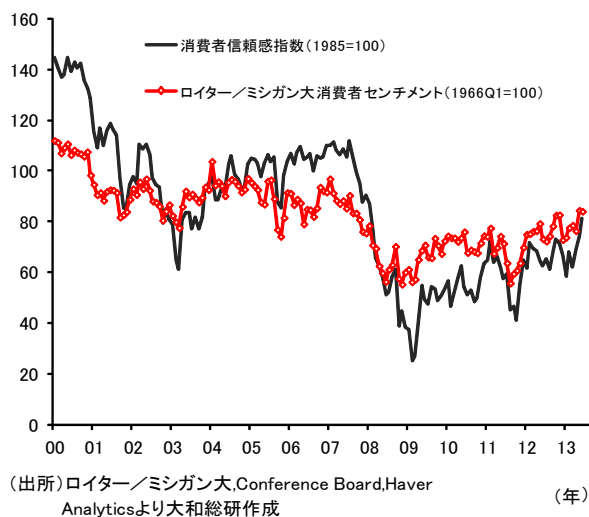
### 小売売上高の推移



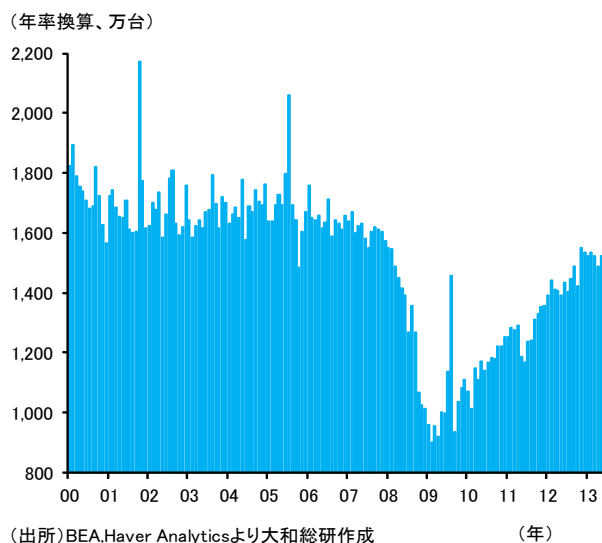
### 消費と株価



### 消費者マインド



### 自動車販売台数



## 住宅市場

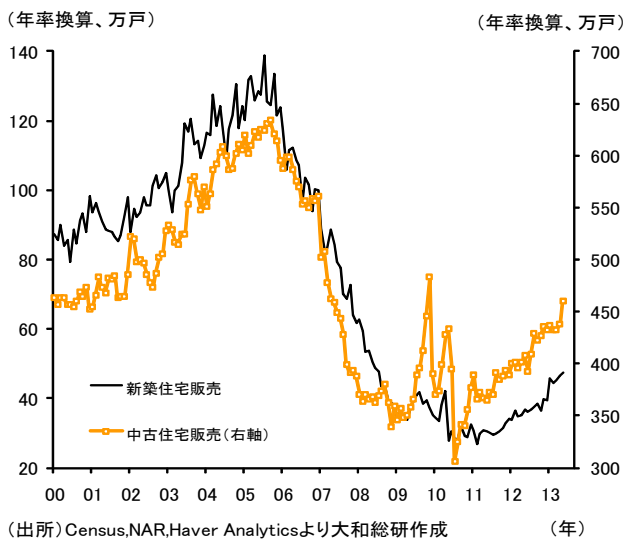
◆5月の新築着工は、年率換算 91.4 万戸で前月比 6.8%増と、前月の同 14.8%減から大幅に回復した。

◆中古住宅販売（一戸建て）は、年率換算 460.0 万戸で前月比 5.0%増。

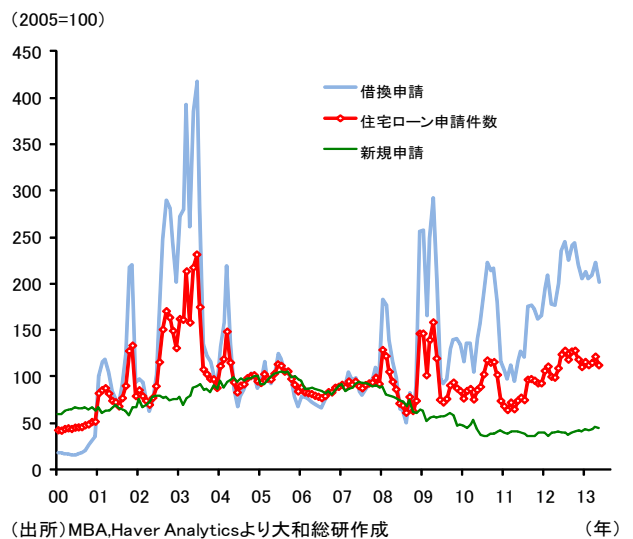
◆新築住宅販売は、年率換算 47.6 万戸で前月比 2.1%増。2008年7月以来、約5年ぶりの高水準となった。

◆住宅価格は引き続き上昇している。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年10月の水準まで回復している。

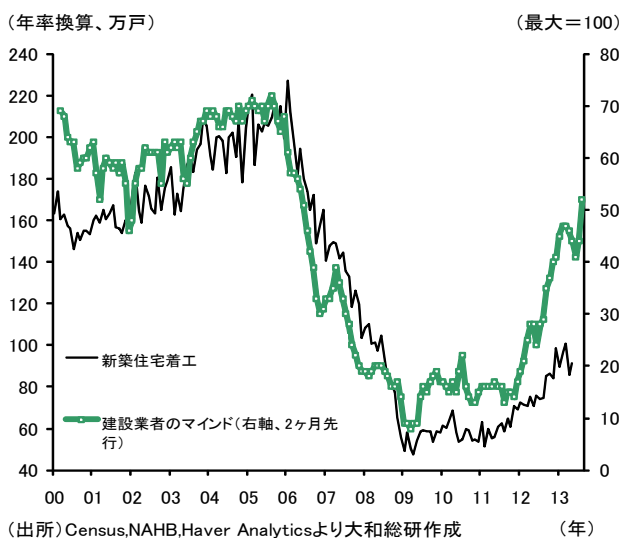
### 住宅販売（一戸建て）



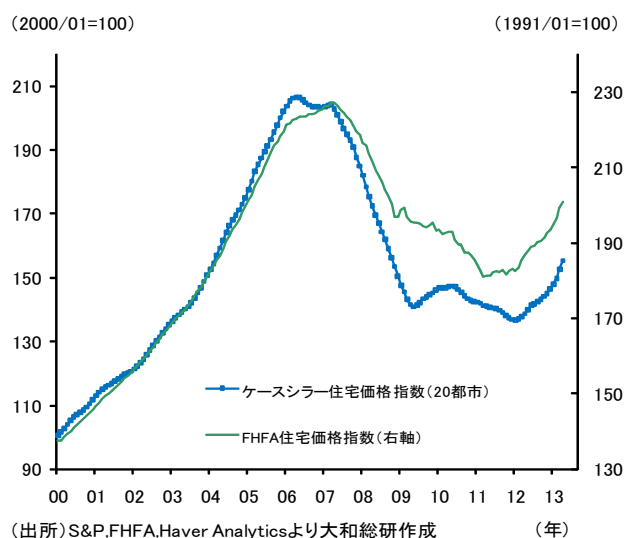
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者のマインド



### 住宅価格



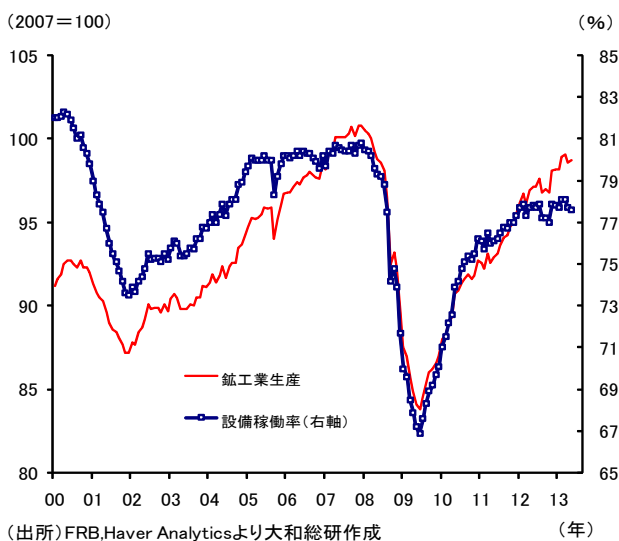
## 企業動向

◆5月の鉱工業生産指数は、前月比0.0%増と前月と同程度の水準で、製造業は同0.1%増となった。

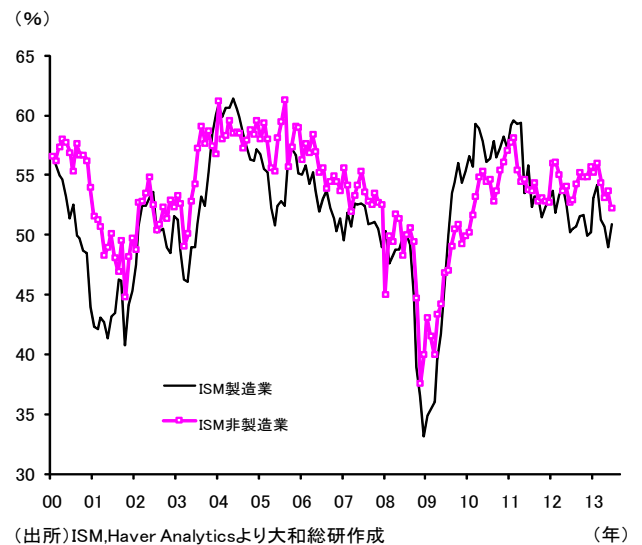
◆5月の国防・航空機を除く資本財受注は前月比1.5%増となり、3ヵ月連続で増加した。

◆6月のISM製造業指数は前月比1.9%ポイント上昇。一方、非製造業指数は同1.5%ポイント低下の52.2で、2010年2月以来、最低の水準であった。

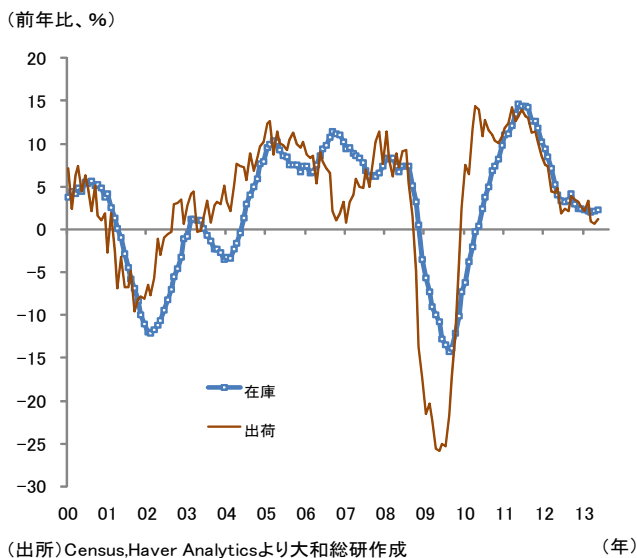
### 鉱工業生産と設備稼働率



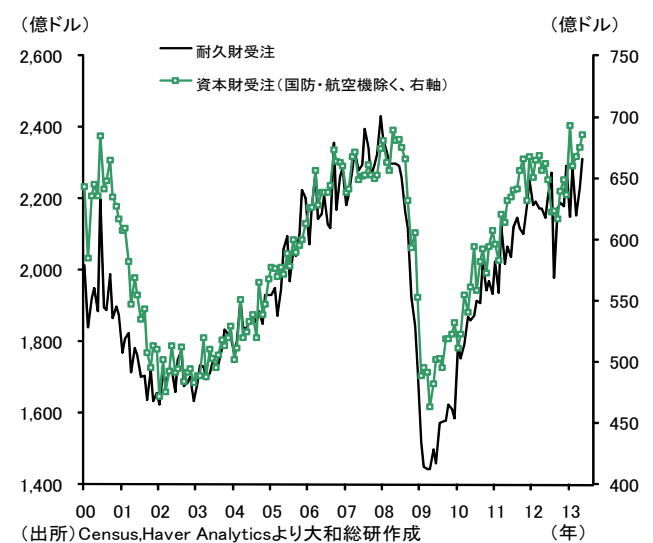
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



### 耐久財受注



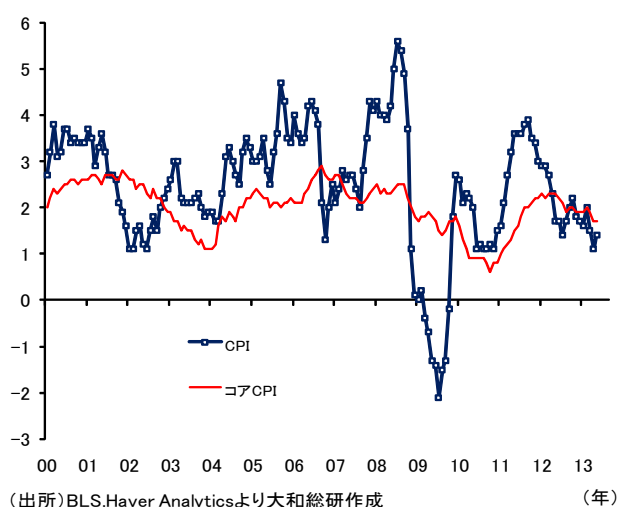
## 物価動向

◆5月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.4%増で、コアCPIは同1.7%増であった。

◆6月末のWTI原油先物価格は96.56ドル/バレルと、5月末の91.97ドル/バレルから上昇した。

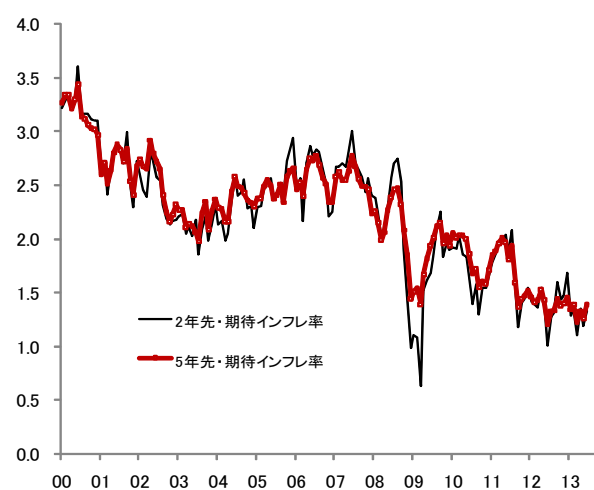
### 消費者物価指数

(前年比、%)

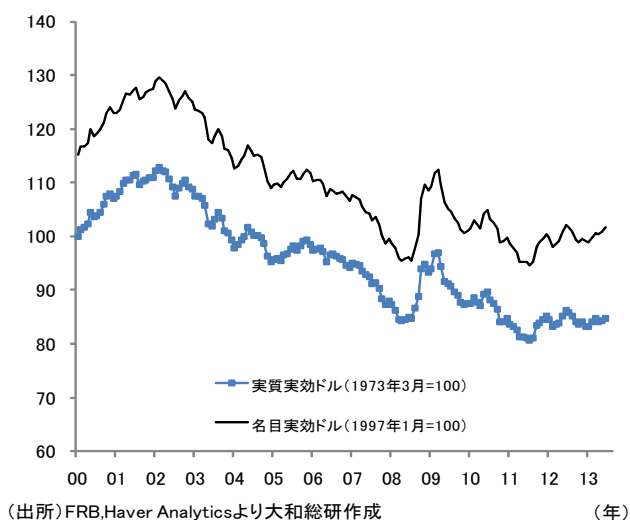


### 期待インフレ率

(%)



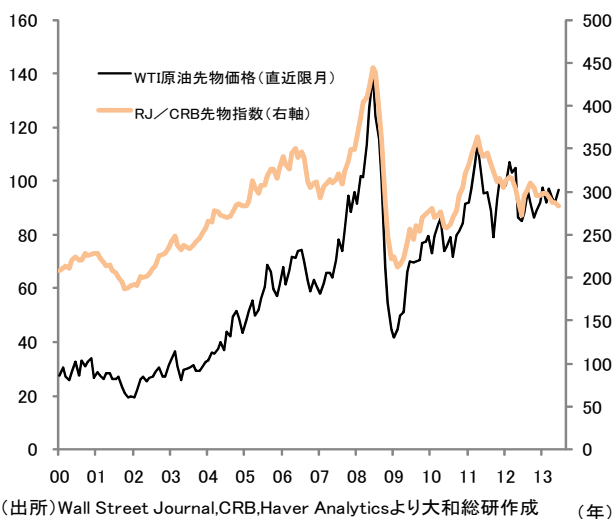
### 実効為替レート(ブロード)



### コモディティ価格

(ドル/バレル)

(1967=100)



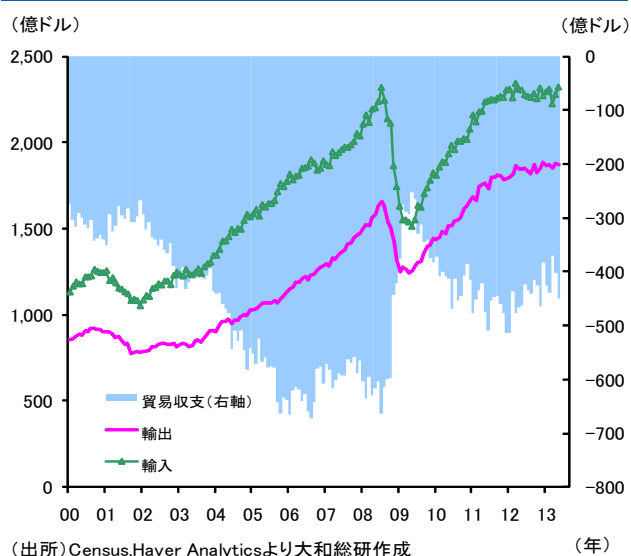
## 輸出入・経常収支

◆5月の貿易収支は450億ドルの赤字で、前月より赤字額が約12%拡大した。貿易赤字の前月比での増加ペースは、過去2年間で最大。

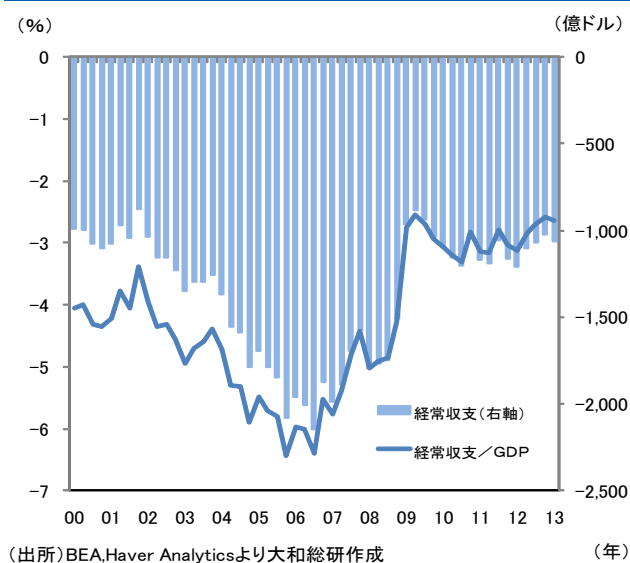
◆輸出は前月比0.3%減の1,871億ドルであった。輸入は同1.9%増の2,321億ドルで、2012年3月以来の高水準となった。

◆地域別では、中国向けの輸出が前年比で減少した。また、日本からの輸入の前年比マイナスが7ヵ月続いている。

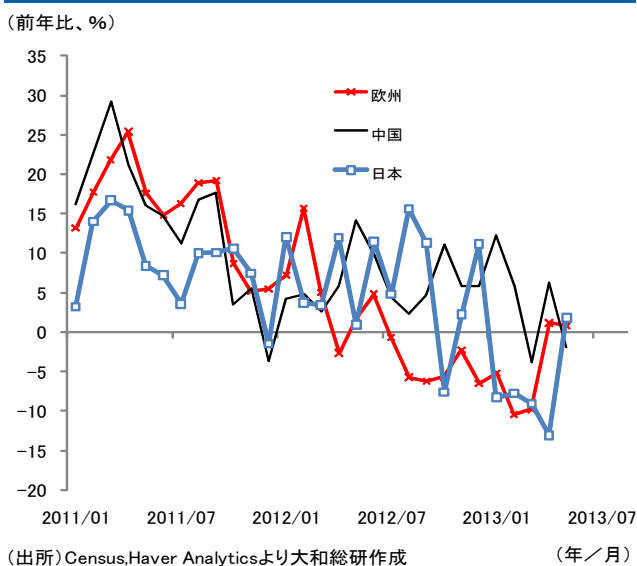
### 貿易収支動向



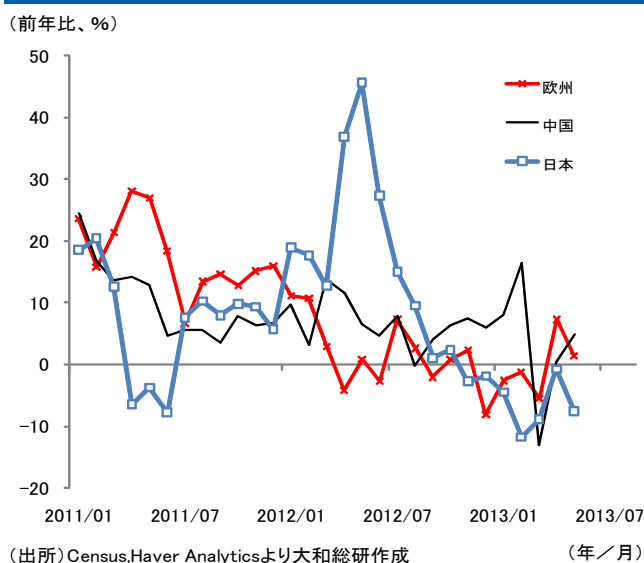
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



### 国・地域別輸入動向



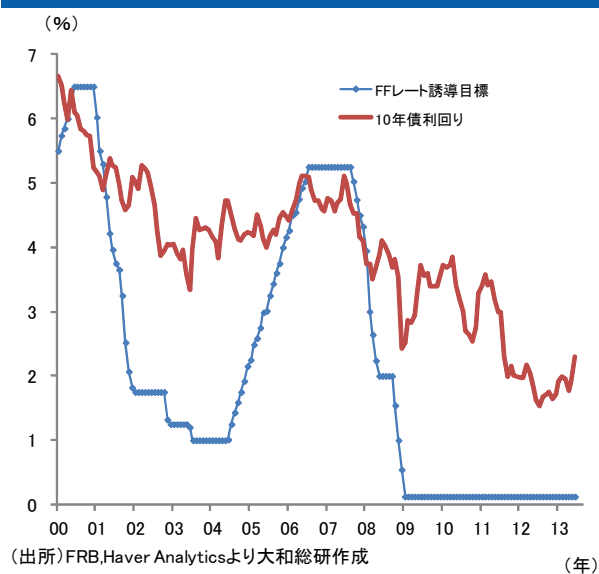
## 金融・財政

◆長期金利の6月平均値は2.30%で、5月平均値の1.93%から上昇し、2011年8月以来の高水準となった。

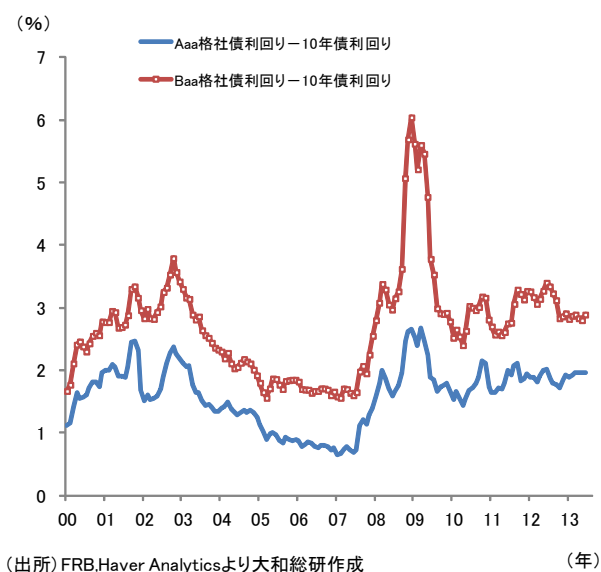
◆QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の7月3日の週平均では約3兆5,300億ドルに達した。

◆FRBによる米国債保有高は、直近の7月3日の週平均では約1兆9,400億ドルであった。6月のFOMCにおいて、月450億ドルの国債と400億ドルのMBS（住宅ローン担保証券）の買い入れが維持されることが発表された。

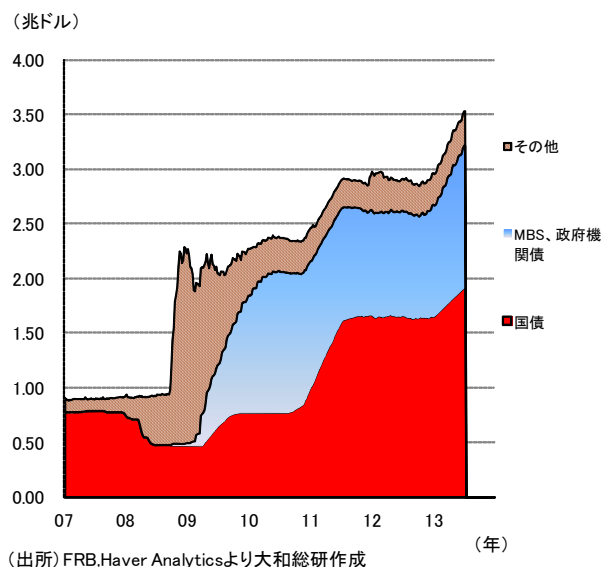
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

